

676
2016年
11月発行

よろこびの泉

わたし(イエス・キリスト)が与える水を飲む者はだれでも、決して渴くことはありません。私が与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。
新約聖書 ヨハネ4:14



秋の夜長に...

梨の芯

河野 進

小さい兄弟は 近所の農家で二十世紀梨の皮をむいてもらって 見せに帰った
そんな大きい全部たべたら
おなか痛くなるから 半分ずつ分けてあげよう
ううん いや
では残して持って帰るのですよ
二人はうなずいて走って行った
約束は正直に果たされていた
夕日が当たる縁側に 小さな芯が二つ並んでいた

河野進自選集「母の詩」より

発行所 奈良県生駒市門前町七一四〇 日本ミッション
〒630-0266 電話〇七四三(七三)一七五四 振替口座〇〇九三〇一六六四二番

発行人 ファアベイ・D
編集人 日本ミッション編集部

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井一七〇
〒350-0303 新生宣教師印刷部
電話〇四九(二九六)〇七二七

一年分 送料共 九〇〇円
定価 一部 一八円



質問箱

問 飲食店で働いて一年後、店長を命じられて営業の一切を任せられました。同時に毎日の売り上げノルマが課せられ、成果をあげないと厳しく咎められ、疲れ果てて自殺をも考えてしまいます。乗り越える方法を教えてください。

答 小さな飲食店が軒を連ねる都市の裏通りでは、生き残りを賭けて激しい客の争奪戦が繰り広げられ、そこで働くパートや店員は競争のしわ寄せを押しつけられています。ブラック企業と呼ばれる悪徳業者は、弱い立場の若者を搾取し、使い捨てにしています。

労働基準監督署は、浮き沈みの激しい中小の事業主に対して、従業員の労働条件の指導改善に手が届かずの状態ではないでしょうか。

「自殺をも考える」ということで、これはあなたひとりだけの悩みでは無く、現代の若者の多くが抱えている憂うべき問題です。

最近、日本財団が日本人の二〇歳以上4万人に「本気で自殺を考えた事がありますか」と、問いかけたところ、全体では25%が「ある」と解答。二〇〜三〇代では30%があると答えました。しかも自殺を考えた人の74%が孤独で、悩みを話せる人がおらず、誰にも相談していなかったのです。(朝日新聞9月8日朝刊掲載)

では苦しみを乗り越えるにはどうしたら良いのでしょうか。

聖書の中でイエス・キリストは「すべて、疲れた人、重荷を負っている人はわたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」(マタイ11:28)と、招いておられます。これは有名な言葉で世界中で信じられ、信じてイエス・キリストの許に来た人は全て、あらゆる悩みから解放されて平安を得、どうにもならないと思われた困難が解決され、生きる希望を持つようになったのです。

私自身もその経験者のひとりです。神は、全ての人が平和で喜びに満ちた生活することを願っておられます。

あなたもまず教会にお出でになり神様を求めてください。きっとあなたが最も必要とする解決が与えられます。(見玉 博之)

親子のしあわせ

385

私の勤めている幼稚園にひとりのお母さんが見学に来られ、そして質問されました。「この幼稚園には、運動会がありませんか。運動会は暑いので嫌いなんです。」また「保育室に冷房はありませんか。」

職員が、「保育室やホールにはもちろん冷房はあります」と答えました。しかし、運動会についてはちよつと心にかかりました。暑いから運動会が嫌だから運動会がない幼稚園を選びたいというのであれば、小学校はどうするのだろうか。更に話が進むうちに、子どもが嫌だからというだけではなく、お母さんも暑いのが嫌だということがわかったそうです。お子さんは私たちの園には入園されませんでした。当園には運動会がありましたから。

後で、私はこの話を聞き色々考えさせられました。嫌だから避けるというので果たして良いのだろうか。大抵運動会は十月上旬で、佐賀はまだ暑いのです。誰でも暑いのは嫌ですが、暑さを我慢しがらばって事をやり遂げる過程



で、子どもたちは大きく成長していくのです。嫌な事は避けるというのは、子どもにとって果たして良いのかなと思いと同時に、私の子育てを振り返りました。

嫌いだっただら食べなくてもいいよ、したくないなら……と、結構ゆるい子育てをしていたなあと反省しました。また嫌なことは回避できるような先回りしたり、我慢させることも少なかつたような気がして、先のお母さんを責められないと思いました。

「患難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出す」と知っているからです。……神の愛が私たちの心に注がれているからです。(ローマ5:3-5)

わが子は大学生、高校生、中学生になっていきます。これからはますます悩み多い時期になるでしょう。そして親子はいつか離れて暮らす日が来ます。その日に備え、艱難に遭ったらお祈りし、神さまの愛に支えられて忍耐し、希望を見いだして行く生き方を身につけて欲しいと願っています。

(相原 幸紀美)

*この「よろこびの泉」は、統一協会、エホバの証人、モルモン教のものではありません。これらの問題でお困りの方は、上記の教会にご連絡ください。

掘り出された生涯

埼玉県飯能市 越川 花子

生きがいが見出せるものと信じて働きながら通った高校生活も、いつの間にか虚しくなっていました。そんな時、ドイツ人宣教師が集会案内を配ってこれ、友人と二人教会へ行くようになったのです。



▲神様の恵みを感じながら

私は一九四四年三月、飛騨高山からほど近い国府という村で生まれました。祖母との栗拾いや山菜摘み、友達と野山で木の実や草の実を取っておやつ代わりに食べたりして遊んだことが、子ども時代の懐かしい思い出です。

キリスト教との出会い

このような環境の中で、初めてキリスト教に触れたのは小学校低学年の時です。田舎では車がまだ珍しかった頃、ある朝、校門の前に車が止まり、中から2人の外国の女の人が降りてきて、馬小屋で生まれた赤ちゃんの紙芝居をし、読み物を配って行かれました。それを貰って校舎に入ると、どの先生の顔も「そんなものももらってはいかん!」と、言っているような顔に見えました。学校の帰り道、私と友達はそれを読まないで破って小川へ流してしまいました。

その後近くの村で毎週子ども集会が開かれるようになり、若いクリスチャン夫婦が引越してこれられ、奥さんが子ども集会を始めてくださったのです。私たちはその奥さんのことを「ももえ姉さん」

と呼んで下校後楽しみに集まっていました。しかし、その頃の私は唯遊び感覚で行き、誕生会で貰える外国製のカードやお菓子が楽しみで、信仰の芽生えには至りませんでした。

生活が一変、そして高校へ

小学3、4年の頃、それまで役場に勤めていた父が、突然役場を辞め、技術を習い、知り合いの人と高山市内で印刷業を始めました。子ども4人を含め一家8人を養って行くには、役場の収入にわずかな農業の収入を含めても困難だったようです。父は野心家でもありませんでした。

事業は初めは順調そうでしたがやがて失敗に終わり、多額の借金に苦しむようになりました。家や畑を売っても追いつかず、一家で祖父母の小さなわらぶきの家に移りました。借金取りはそこにもやってきました。父は居留守を使って逃れていました。

家族の生活が一変。兄は昼の高校を定時制に変え、姉は中学卒業と同時に集団就職。私は愛知県の小さな織物工場に就職しました。最初は希望に満ちた出発でしたが、一年も経たない内に空しさを感じるようになりました。それは自分が高校を出ていないからだと思いましたが、母は「もう少し辛抱によく愚痴をこぼしましたが、母は「もう少し辛抱したらきっと良いこともあるからな」と、慰め励ましてくれるのでした。

再びキリスト教と出会う

そんなある日のこと、会社の栄養士の方が「都竹さんは高校へ行きたいと思ってるそうだけど本当? 私も定時制を出て短大に入り栄養士になったのよ。あなたが本当に勉強したいなら」と言っ

神の働きに入れられて

高校卒業後は幼稚園教員養成所の道も開かれましたが、神様のために働きたいという願いが起こされ、関西聖書神学校へ入学。卒業後は銚子、佐渡、千葉、四街道、世田谷の教会で牧師、宣教師の力がたぐと共に教会の働きに携わらせていただき、五十五歳の時、牧師であった現在の夫と結婚しました。夫は奥さまに先立たれた後、一人で教会に仕えて六十八歳でした。結婚後は二人で教会に仕え、夫が七十歳になったのを機に主任牧師を辞し、飯能市に移りました。現在夫は八十五歳、私は七十二歳になりました。

老いの坂を上りつつも、感謝と賛美を献げながら愛と真実に満ちた神様に お任せしていきたいと祈り願っています。

「あなたがたの切り出された岩、掘り出された穴を見よ。」(イザヤ51:1)

ご自分が卒業した学校を紹介してくださいました。私にとっては夢のような話でした。
岐阜県羽島郡にあったその学校は3部制で、近くの工場で働きながら通うことが出来たのです。職場が変わり待望の高校へ二年遅れで入学。そこで素晴らしい生きがいが見いだせるものと考えたのもつかの間、また空しい生活に戻ってきたのです。
二年生の時、校門のところで、ドイツ人宣教師と数名の方が集会の案内や読み物を配って行かれました。心の中では自分の弱さを認めつつも、宗教は病人や年老いた人が信じるもので、若い私たちが自分の力で生きていかなければ」と、一種の抵抗を感じながらその光景を二階の教室の窓から眺めていました。

ところがその日の夕方、友人が貰った案内を見ている内に2人とも行きたくなくなり、その晩近くの公民館で持たれている小さな集会に出席しました。始めの内はただ讃美歌や先生方の温かい人柄に惹かれて行っていました。けれども不思議なことは、行く時には重い沈んだ心であっても、帰る時には心の中が軽くなって喜びに満たされていることでした。

聖い神の前の自分

何回か行っている内に、それまでは罪だとは思わなかったことが罪だと分かるようになりました。人と比べてではなく、聖い神様の前に自分は罪深い者だということが分かってきたのです。しかし、一つの疑問がありました。それは二千年前のキリストと今の私と何故関係があるのだろうかということでした。そんなある日、一人で聖書を読んでいると私の心に語りかけて来るものがありました。

「外側から人はいって、人を汚すことのできる物は何もありません。人から出て来るものが、人を汚すものなのです。……内側から、すなわち、人の心から出て来るものは、悪い考え、不品行、盗み、殺人、姦淫、貪欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、そしり、高ぶり、愚かさであり、これらの悪はみな、内側から出て、人を汚すのです。」(マルコ7:15、21、23)

汚すものなのです。……内側から、すなわち、人の心から出て来るものは、悪い考え、不品行、盗み、殺人、姦淫、貪欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、そしり、高ぶり、愚かさであり、これらの悪はみな、内側から出て、人を汚すのです。」(マルコ7:15、21、23)
当時の私は劣等感の塊で、それを父母のせい(昼の高校へ行かせてくれなかったことなど)にし、社会のせいにしていたのですが、この言葉に心を照らされたとき、私を暗くしているのは他人ではなく、自分の罪の結果であると気付かされました。また私の過去の罪はイエス・キリストの身代わりの死によって全部赦し清められることを知り、その救いを信じる事が出来ました。

同時にそれまでの自分の罪を思い出す限り神様の前に言い表しお詫びしました。そして父母には尊敬していなかったことを手紙を書いてお詫びし、他の人たちにも思い出す限り謝りました。「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方です。その罪を赦し、全ての悪から私たちをきよめてくださいます。」(1ヨハネ1:9)

一九歳の夏に洗礼を受けました。



「あなたを慕い求める人がみな、あなたにあつて楽しみ……ますように。」詩篇70:4

wink?